

## 地域交流センターの 21年度実績報告

静岡福祉大学 地域交流センター  
委員 前川有希子  
職員 藪崎 朝子・山田 節子

地域交流センターは7年目を迎えます。

### 地域交流センターの役割

- センターの中心業務である「地域活動支援」
- 地域福祉に欠かせない人材を育てる「人材養成・研修」
- 福祉社会づくりの基礎資料となる「調査研究」
- 地域福祉情報などの受発信を行う「広報啓発」



## 高齢者企画の目的・ねらい

### 目的

地域の高齢者や介護従事者・家族介護者に対し、**本学の設備や教員の持つ知識ならびに学生とのかわりを提供する。**高齢者には介護予防や孤立感・閉じこもり対策となり、介護従事者・家族介護者には、介護職員研修や学びの場となるような企画を実施し地域貢献をする。

「静福サロン」・「ホッとひと時勉強会」の二本柱  
勉強会についての報告・計画は、配布資料を参照して下さい。

## 静福サロンの目的・ねらい

地域及び近隣の高齢者に本学等に出向き、仲間との出会い・学びあい・気持ちを交わしあうことで、いつまでも心身ともに健康で、人とのかわりをもった生活が送れるよう高齢者サロン事業を展開する。

ねらい(1)人との出会い・ふれあい・刺激しあい

(2)生涯学習、学びあい

(3)身体を動かす習慣づくり

21年度11回開催、22年度10回を予定している。

## 21年度の実施ダイジェスト(その1)



## 21年度の実施ダイジェスト(その2)



## 21年度の実施ダイジェスト(その3)

学生と折り紙

歌あり、踊りあり、講義あり、学生と折り紙、ふれあいあり。

音楽療法

ダンス

皇室研究の講義

## 静福サロンの成果として

- 大学のキャンパス内の同じ空間に高齢者・学生がいることは、それぞれに良い刺激をあたえる。
- 元気な高齢者のありのままの姿を学生に見せることは、学生の描く将来像に影響をあたえる。
- 福祉専門職を養成する大学として、高齢者に対して親近感を感じさせる機会となる。
- 大学生との出会い・ふれあいは、高齢者にとって生活・精神面でのはりを与えることができる。

## 参加者のアンケート(36人)からその1

- 最終回3月の参加者に実施
- 参加者は60歳代と70歳代が合わせて約8割
- 参加のきっかけは「友人に誘われて」が62%
- 参加しての感想は、勉強の機会になった。20人 (55%)
- 仲間作りができた。13人 (36%)

## 参加者のアンケート(36人)からその2

- 参加者 地元焼津市だけでなく、静岡市・藤枝市・御前崎市・牧之原市から参加いただけた。
- 内容 好評だったもの 講義(皇室について、認知症について等) 演習(ディスコン、音楽療法等)

## 22年度の計画

- 全10回を計画している。
- 学内の教員による講義・演習のみならず、ゲストを招いた授業。

おばあちゃん劇団ほのお代表 大石さきさん

焼津市長と前学長との対談

出前サロンの実施  
7月28日うみえーる、深層水ミュージアム

## まとめ

- 静福サロンは2年目を迎えることができた。
- 高齢者からの要望・ニーズが多く、大学に直接連絡をされるかたもいた。
- 学生の参加・かかわりが増加しつつある。
- 10月には学生企画の時間を設ける予定。

地域社会には、若者だけでなく子供・高齢者などさまざまな年齢層の人々が生活している。大学もさまざまな人たちがかわりあえる環境を整えていく必要がある。福祉専門職を養成する大学として、年齢を超えたコミュニケーションの機会を提供していきたい。